

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075400293
法人名	(有)エバークリーン
事業所名	グループホーム くるみ
所在地	鞍手郡鞍手町大字中山 3599番地 電話・FAX 0949-43-1230

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成20年6月20日	評価確定日	平成20年7月10日

【情報提供項目より】(平成 20年 5月 31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1日				
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人		
職員数	16 人	常勤	16人, 非常勤	人, 常勤換算	7.5 人

建物構造	軽量鉄骨造り		
	1階建ての	1階	～ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
一日1,200 円				

(4)利用者の概要(5月 31日現在)

登録人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低 64 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	木原医院・鞍手町立病院・健愛記念病院・りんご歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームくるみは豊かな田園風景が広がる中に建つ平屋造りのホームである。「何よりも心地よい生活」の理念の下、地域と連携し入居者と家族が満足の行く生活を送れるよう心のこもった介護を行うよう日々努力している。管理者は隣接する医療法人の院長であるが、毎朝ホームを訪問し、「一日に一度は笑おう」をモットーにした対応を心がけている。職員は常々から入居者を親のように、自分たちも家族のように接しており、心の通った介護が提供されている。健康管理の充実や、入居者の変化に合わせた介護計画をチームで作成することなどが功を奏し、健康状態の安定や穏やかな情動を導いている。季節や体調に合わせた外出も積極的に取り入れ、恒例となった夏祭りで近隣住民とも顔見知りの関係を構築している。管理者は高齢者支援、障害者の就労支援に熱心に取り組んでおり、地域密着型サービスとしてホームの機能を今後は地域医療、福祉へのますますの還元を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画も優先順位を決め、本人家族の意向に沿った介護計画の作成や研修の参加、マニュアル作成に積極的に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各職員で自己評価を記入し、全体で検討している。文章に記載することが苦手な職員もいたが、文章表現することで日々のケアの振り返りができたと感じている。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議の規定は整備され、介護保険担当職員、地域住民、民生委員、入居者家族、入居者等のメンバーで開催されているが、議題が見つからないため、定期的開催されていない。前回の外部評価の結果は、町の担当課に報告しており、町民が閲覧できる様に掲示が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族が利用料金入金の際に、入居者の1ヶ月の状況を記載した「実績票」を手渡し、日々の出来事を話したりホームに対する要望を聴き取る様にしている。家族会の設置はないが、運営推進会議での家族に意見を運営に反映している。苦情相談箱を設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接する医療法人の院長でもある管理者は、小中学校の予防接種に出かけたり、看護学校の講師や介護保険事業策定委員として、地域医療福祉に貢献している。障害があっても社会参加できる場を提供したいと、障害者をボランティアとして受け入れている。農道の整備や夏祭りで住民と交流でなじみの関係が形成され、入居者が一人でかけようとしても近隣住民が職員に声をかけてくれるようになった。

## 2. 評価報告書

(  部1. 評価報告概要表

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法令を理解し、地域密着型サービスとして新たに「何よりも心地よい生活」を理念とし、運営理念を玄関ホールに掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に運営理念を唱和することで、日常のケアの折にふれ、理念の実践を感じている。職員は、地域と密着する意識が高まっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の特性で、田の所有がないと自治会に参加できないが、ホーム側から加入の問いかけは行っている。隣接する医療法人の院長でもある管理者は、小中学校の予防接種に出かけたり、看護学校の講師や介護保険事業策定委員として、地域医療福祉に貢献している。障害があっても社会参加できる場を提供したいと、障害者をボランティアとして受け入れている。農道の整備や夏祭りでの住民と交流でなじみの関係が形成され、入居者が一人でかけようとしても近隣住民が職員に声をかけてくれるようになった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員で自己評価を記入し、全体で検討している。文章に記載することが苦手の職員もいたが、文章表現することで日々のケアの振り返りが出来たと感じている。前回の改善計画も積極的に取り組んでおり、研修の参加やマニュアル作成に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーには、地域の民生委員、地域代表、入居者、入居者の家族、介護保険課職員が参加しており、昨年の外部評価の報告も行われている。運営推進会議実施要綱、議事録は整備されているが、議題が見当たらないとの事で、昨年の6月から開催されていない。	○	会議を定期的開催するために、ホームの活動等の報告にとどまらず、地域の独居世帯に対してホームができる事を提案したり、ホームの困りごと、地域防災についての共通理解等を議題として取り組んではいかがでしょうか？

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価の報告を町担当課に報告したり、外部評価の結果を町民の誰でもが閲覧できる様に窓口に掲示している。町と一緒に年に一度の介護教室を開催している。地域包括支援センターに各ホームの空き情報を掲示するため、情報提供している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度、地域福祉権利擁護事業について各家族にパンフレットを渡し、説明を行っているが、活用には至っていない。成年後見や地域権利擁護事業の研修会にも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	預かり金は行っておらず、入居者の買物などの代金は一旦事業所が立替、前月の利用料の支払いの際に一緒に入金をお願いしている。各受け持ち担当者が前月の利用状況や職員の交代を実績票に記入し家族に手渡すようにしている。定期的な健康診断も行われており、報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置している。運営規定、重要事項に苦情や相談への対応について明記している。家族会の設置はないが、恒例となった夏祭りなどで家族同士が交流している。また、運営推進会議では家族の活発な意見があり、運営に反映している。	○	認知症を抱える家族がお互いの悩みや意見を共有できる場として、茶話会などを設けてはいかがでしょうか。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員の異動は、入居者を不安にさせるため行わないようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	ハローワークの活用、職員の紹介などで職員を採用している。職員の年令も幅広く、職員同士の長所を活かしながら働いている。就業規則もあり、雇い入れ通知書が交付されている。年一回の職員健診も実施しており、有給休暇も定期的に取りれるように配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権教育、啓発のパンフレットが整備されておらず、人権研修の参加は行われていない。身体拘束防止について契約書に明記しており、マニュアルも整備している。やむをえず、身体拘束を行う場合の記録、同意書も整備されている。	○	人権研修の参加やパンフレットの整備をお願いしたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はなるべく研修会に参加し、認知症を正しく理解したいと考えている。勤務時間を調整し、交代で研修に参加できる仕組みがとられている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	夏祭りに、他のグループホームの職員と入居者を招待したり、同業者間で訪問、見学など、積極的に交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居や、見学、慣れるまで日中のみ過ごしてもらうなど工夫している。近隣住民や隣接するデイケア利用していた方が多く入居しているため、なじみながらの入居が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者、職員は、「それぞれが家族の様に関わること」を心がけている。職員の子どもの病気を心配したり、職員が成人式の後、晴れ着姿を入居者にお披露目に来るなど、家族的な関係がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦や職歴などをアセスメントしている。感情や思いが表出しにくくても、日々の生活の中で、把握したちよつとした情報でも職員同士で共有できる様に、記録を取りミーティングなどで活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者のケア計画が共有できる様に、主たる担当者を決めている。月に一回のケア会議で計画を意見を出し合い、見直すようにしている。計画書には、本人、家族の意向の記載があり説明同意の署名捺印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎に定期的見直しも行われており、情動の変化や体調の変化の合わせて、家族と情報共有しながら見直しが行われており、見直した計画について家族に説明、同意を取っている。支援経過記録、モニタリング記録、担当者会議録は整備されている。	○	支援経過記録を、「マネジメントの支援経過」と日々の「介護支援経過」と整理されてはいいかがでしょう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接するデイケアの利用から入居に至った場合は、入居後もデイケアに参加できるなどの仕組みがある。行きつけの美容院の送迎や入居者家族がお化粧品ボランティアをしたり、障害者のジョブコーチの研修の場としており、育成後、介護への就労意欲につなげている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する医療法人の院長が主治医であるため、定期的な健康診断が行われており、家族に報告している。主治医として協力医療機関ばかりでなく専門外の医療機関への受診も支援している	○	ホームの職員が医療の情報の共有をするため、医院の看護師の申し送り記録、ホームの看護師の記録の整備をお願いしたい。
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者である主治医は、訪問診療の視点でホームの入居者と関わり、緊急時、急変時は専門分野を生かした支援ができる様に救急搬送することとしている。今後ホームで終末期を迎えることがあっても、家族や本人の意向が確認できれば、訪問診療、訪問看護を活用し、支援したいと考えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者をなじみの呼び名で呼ぶようになっているが、尊厳を考慮し「〇〇さん」と、下の名前前で呼ぶ様に心がけている。個人情報の保護に関するマニュアルも作成し、掲示もされている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	担当制をもうけており、日常生活を把握する様にミーティングを行っている。個別に散歩に出かけたり、近隣の外出に付き合ったりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2ユニットそれぞれにメニューを変えるようにしており、ユニット間で「おすそ分け」をして楽しみを増やす工夫をしている。下ごしらえや後片付けなどを入居者と共に行っている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	失禁などで汚れた場合、その都度、夜間でもシャワー浴を行っており、最低週3回入浴できる様に配慮している。入浴拒否のある時は気長に根気強く声をかけし、入浴を支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	金魚の世話係りや花壇の水遣りなど、入居者の力量に合わせて担当をお願いしている。月に一度入居者の家族によるお化粧品ボランティアがあり、楽しみにしている。お化粧の後は話が弾む。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の温泉に出かけたり、初詣や季節ごとの花見や近隣への散歩、隣接するディケアの誕生会の参加など積極的に行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことがあたり前として、入居者職員が過ごしている。玄関の金魚の様子を見に出たり、通りがかりの近隣住民が声をかけてくることもある。外出傾向のある入居者には職員が心配りしながら日々を過ごしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防訓練を実施している。災害を想定し3日程度の備蓄を行っている。夜間を想定した訓練を行うよう検討している。	○	今後は火災を想定した訓練ばかりでなく、地震や水害時、入居者をどこに避難誘導するか等の情報を全職員で共有し、独居高齢者に対してのホームの役割や地域住民との連携をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に一度体重測定を行っている。入居者の好みに合った食事やおやつがバランスよく準備されている。定期的に水分が取れるように配慮している。食事摂取量が少ない入居者にはプリンなど好みのもからアプローチしたり、食事制限を指示された入居者には御本人が不満に思わないように配慮している。水分、摂取量食事摂取量に記録が整備されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットのリビングの一角には和室がしつらえてある。洗濯物を畳んだり季節の花が飾ってあったり、家庭的な雰囲気漂っている。リビングのあちこちにソファが置いてあり、入居者は思い思いの場所でくつろいで過ごしている。職員は、活動量の多い職員に合わせるのではなく、入居者が心地よいと感じる室温になる様に配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や仏壇などの持込があり、家族写真を貼ったりして落ち着けるように工夫している。		